

10 宇陀市薬草協議会（奈良県宇陀市）

産地の概要



品 目

トウキ（ヤマトトウキ）、セネガ

栽 培 面 積

68a（トウキ58a、セネガ10a）（令和5年10月時点）

栽 培 戸 数

36戸

取 組 体 制

宇陀市薬草協議会（種苗供給、収穫物の生産者からの買取・販売）
└ 生産者（本圃での栽培・収穫）
└ 宇陀市（協議会事務局、企画・運営）
└ 県東部農林振興事務所（技術指導、助言）
└ 県農業研究開発センター（栽培技術開発）

特 徴

本圃での栽培・収穫と種苗供給及び乾燥・調製作業を分業化

取組の背景

日本書紀に宇陀地方における推古天皇の薬猟（くすりがり）の記述があることや、現存する日本最古の私設薬園「森野旧薬園」が市内にあることなどから、平成24年に宇陀市が「薬草を活用したまちづくり」の一環として薬草プロジェクトを始動。同じく平成24年に部局横断的な「漢方のメッカ推進プロジェクト」を開始した県と連携し、平成27年には「宇陀市薬草協議会」を設立して、トウキの本格生産が開始された。



ヤマトトウキ栽培圃場

品目選定理由

県内で古くから栽培されていたこと、県研究機関等が栽培技術の知見を有していたこと、「大和当帰（ヤマトトウキ）」を扱う生薬問屋が県内に存在したこと、県の漢方関連プロジェクトにおいて最重点振興品目としてトウキが位置づけられていたこと、試験栽培で良好な結果が得られたことから、トウキを選定。

課 題

- ・優良種苗の安定確保
- ・除草や手作業による収穫などの管理作業に多くの労力が必要
- ・初期生育の改善と収量の向上

主な取組内容

①種苗

- ・採種・育苗は協議会から委託を受けた生産者が実施し、協議会が苗を配布

②栽培管理

- ・県東部農林振興事務所・農業研究開発センターによる栽培講習会・生産者情報交換会（1回/年）＋巡回指導（5回/年）
- ・雑草対策・初期生育改善等の実証圃を設置
- ・採種・育苗の新規生産者の育成（2戸）

③乾燥・集出荷

- ・協議会が生産者からトウキ根の全量を買上げ、乾燥後、県内の生薬問屋に出荷（洗浄・調製は出荷先の生薬問屋が実施）

④その他

- ・トウキの葉も収穫し、協議会を通じて加工業者に出荷



トウキ苗床と定植苗



生産者情報交換会



トウキ根



トウキ葉

成 果

【取組による定量的な成果】

トウキ（根）販売量増加 H27：166kg → R5：666kg

今後の展開

- ・優良種苗の安定供給体制を強化する
- ・実需者の求める高品質なトウキの生産技術の確立を図る